ブラインドサッカー日本代表主将

誰かのヒーローになりたい

川村（かわむら） 怜（りょう）さん（36歳）

シャカシャカなるボールは友だち。そして、まわりの音に集中する＝東京都小平市

フロントランナー
Front Runner

みなさん、今いる場所で立ち上がり、目をつぶってみて。3回、回って、目を開けたまま歩いてみてください。

ピピッと鳴る。一歩を踏み出せませんでした。自分がピッチのどこにいるかを、まわりの音で瞬間的に認知する。ボールから出るシャカシャカという音や、目の見えるゴールキーパーらの指示をもとに、走る、パス、トリプル、フェイント、そして、シュート。

それがブラインドサッカー。

ブラジルでは、現在、アルセンチン、ブラジルに次ぐ3位。川村さんはこの9年、主将をつとめる、代表通算ゴール数はだいま90。日本歴代最多だ。

大阪府生まれ。5歳で目の病を発症。視力が落ちていく。少年サッカーをあきらめた。中学のサッカー部に入れなかった。視力が弱すぎて危険、が理由だった。

サッカーをあきらめ、中学、高校と陸上部で中長距離走に取り組んだ。視覚障がい者に門戸をひらき、誘い水に乗ってあこがれのサッカーに。自分はいったい何をしているのだ、と思った。

アイマスクをして立った、暗闇の中で、自分はどこを向いているの、みんなはどこにいるの、ボールをパスしてくれているらしいが……、本当かな？

「不安というか恐怖というかに襲われ、動けなかった」

それが、ブラサカとの出会いだった。

それが、ブラサカとの出会を言い渡された。同じ年、日本代表に初選出。ブラジルとの親善試合で、代表初ゴール。そ

2013年、医師に「全盲」

の、豊富な運動量でゴール、ゴール、10位前後だった世界ランクを3位にまで引き上げた。その立役者だ。

子どもたちと交流するときの、うれしそうな声。それを聞くのは、至福のときだ。

もし何かをなくして、くじけそうになっても、ボクの存在を思えば勇気がわく、そんな誰かのヒーローになりたいと、ひたすらに思う「背番号10」である。

文・中島隆　写真・渡辺雅晴

（1面から続く）

「メダルをとり、支えてくれた方に恩返しを」

フロントランナー
Front Runner

（1面から続く）

川村　怜さん　ブラインドサッカー日本代表主将

――ゴール手に出現してですが――

ブラインドサッカーというと、機材について教えてください。

――ピッチの長さは38メートル、幅は18メートル。ゴールは高さ2メートル、横3メートルです。ボールは、音が出る。ピピッと鳴る。ピッチの長さは38